災害時要援護者・介助者体験訓練説明資料（機械系・GE学部、建築系）

学生用

訓練の目的

　視覚障がいの方や聴覚障がいの方（災害時要援護者）が、災害時にどのような状況におかれるか、またその介助者としてどのような支援が必要なのかを模擬体験し、その体験を通して災害時における災害時要援護者の方への支援のあり方について各自が考え、学ぶことを目的とする。

訓練参加者

機械系・GE学部、建築系の学生、教員

①誘導役

機械系・GE学部：鈴木　健司　　建築系：未定

機械系・GE学部学生1名、建築系学生1名（集合時に参加者より選定）

②要援護者役・介助者役：学生約50名

訓練の主な流れ

（訓練の進捗状況により下記時間が前後することもあります）

13時：3階アーバンテックホール集合

　　ホール入り口にてゼッケン（白色）を配布

13時から13時15分：訓練説明、訓練備品の配布

誘導役→腕章を配布

要援護者役・介助者役→アイマスクまたは耳栓、筆談用道具を配布

13時15分頃から30分：誘導役教員の誘導で新宿駅西口イベントコーナーへ移動

アーバンテックホール→大学B1階→南側地下道→新宿駅西口イベントコーナー

※誘導ルートは次頁参照

※誘導役は腕章を着用

13時30分：災害時要援護者・介助者体験訓練準備

　　誘導役教員→訓練の準備を指示

要援護者役・介助者役→アイマスクまたは耳栓を着用、筆談用道具準備

13時35分頃：誘導役の指示・誘導で訓練開始

　　新宿駅西口イベントコーナー→南側地下道→大学B1階

　　※誘導ルートは次頁参照

14時頃：大学B1階玄関前到着完了、警備員の指示により玄関前待機

警備員より大学本部へ受入要請、大学本部より警備員へ受入指示

14時5分頃：警備員・緊急対応班職員の誘導によりB1階・一時待機場所へ受入

14時10分頃：情報収集班職員により要援護者受入状況の把握、大学本部等へ受入状況の報告

14時15分頃：情報収集班職員より大学内での体験型訓練等に関する情報提供

14時20分頃：誘導役教員の誘導により体験型訓練等へ参加

16時頃：体験型訓練等終了、アンケートの実施・回収、記念品贈呈、解散

要援護者役、介助者役の訓練内容

　訓練内容：要援護者役と介助者役が2人1組で行動し、要援護者と介助者を模擬体験する

☆視覚障がいの方を模擬した要援護者：アイマスクを配布

アイマスクを着用し、介助者の誘導で移動する

☆視覚障がいの方を模擬した要援護者の介助者

転倒事故などがないよう、経路中の段差や通行人に注意しながら要援護者を安全に誘導する

　　☆聴覚障がいの方を模擬した要援護者：耳栓、筆談用具（ペン、紙、画板）を配布

耳栓を着用し、筆談にて介助者と意思疎通しながら介助者の誘導で移動する

　　☆聴覚障がいの方を模擬した要援護者の介助者：筆談用具（ペン、紙、画板）を配布

筆談にて要援護者と意思疎通しながら、要援護者を安全に誘導する

注意事項など

・訓練中、個人の荷物は持参し、各自で管理を行う。

・要援護者役と介助者役が2人1組で行動する。

・誘導途中、誘導役より指示があったら、要援護者役と介助者役を交代する。

　・視覚障がいの方を模擬した要援護者は、アイマスクを着用し、介助者の誘導で移動する。危険だと感じたら、すぐにアイマスクを外し、訓練を中止する。

・視覚障がいの方を模擬した要援護者の介助者は、転倒事故などがないよう、経路中の段差や通行人に注意しながら要援護者を安全に誘導する。

　・聴覚障がいの方を模擬した要援護者は、耳栓を着用し、筆談にて介助者と意思疎通しながら介助者の誘導で移動する。

　・聴覚障がいの方を模擬した要援護者の介助者は、筆談にて要援護者と意思疎通しながら、要援護者を安全に誘導する。

誘導ルート図

